

GnRH アゴニストの副作用(うつ、自殺企図・自殺念慮)、5年ごと3回の調査データ

1. JEMA データの背景

	06年データ	01年データ	96年データ
募集方法	JEMA サポーター(寄付者)に送付 電話相談済みの非サポーターに送付 新聞各紙で一般患者募集	JEMA 会員に送付 新聞各紙で一般患者募集	JEMA 会員に送付 新聞各紙で一般患者募集
調査時期	2006年8月~9月	2001年8月~9月	1996年8月
対象者	1577人	約2200人	約1100人
有効回答	668人(回答率42%) サポーター50%、非サポーター50% 元JEMA 会員151人(23%)	1073人(回答率49%) 会員75%、非会員25%	703人(回答率64%) 会員76%、非会員24%
居住地	全都道府県+海外	46都道府県+海外	41都道府県+海外
診断内訳	確定診断418人(63%) 臨床診断250人(37%)	確定診断603人(56%) 臨床診断470人(44%)	確定診断325人(46%) 臨床診断378人(54%)
平均年齢	37.3歳(20~67歳) 閉経した元患者も募集(18人)	36.3歳(22~61歳)	34.3歳(20~57歳)
結婚率	64%	71%	70%
前回回答者	01年回答(13%)、96年回答(3%)	96年回答(16%)	-

2. 各薬剤の使用人数と使用率 過去全ての経験 総合(確定+臨床)

	06年(526人)		01年(937人)		96年(600~650人)
	人数	%	人数	%	人数
低用量ピル	312	59	199	21	-
超低用量ピル	37	7	-	-	-
中用量ピル	95	18	153	16	-
黄体ホルモン	20	4	-	-	-
ダナゾール	85	16	321	34	297
スプレキア点鼻	157	30	499	53	461
ナサニール点鼻	85	16	227	24	84
スプレキア注	43	8	119	13	-
ゾラデックス注	31	6	17	2	-
リュープリン1.88注	140	27	192	20	-
リュープリン3.75注	105	20	233	25	132

ここからあとの、うつ、自殺企図・自殺念慮データを読む注意

- 先にお送りしてあるサポーター通信5号より、発生率が1~2%下がったものがある。
例えば06年では、治療体験(設問35)は過去5年間の体験で聞いているが(データでは「過去5年間の体験」と表現し、01年や96年との変化を見る重要なもの)、別途、設問34で過去17年間の毎年の治療体験も聞いている(データでは「過去すべての体験」と表現)。しかし、副作用(設問59)では、さらに真の過去すべての体験が回答されていた。
サポーター通信では、副作用の発生率を出す場合の各薬剤使用人数を設問34でとったが、今回はそれにもれていた設問59の回答も拾ったため、薬剤使用人数が若干増えたものは副作用の発生率が下がったということ。
- 副作用で、基本の過去5年間より以前のことを回答をしているのは、うつの約3割、自殺系の約2割だった。
- 01年にも回答した可能性が高い人は(GnRHアゴニストの場合)、うつの14%、自殺系の3%だった。
96年にも回答した可能性が高い人は(GnRHアゴニストの場合)、うつの8%だった。
- 超低用量ピル(2種のみ)は、個人輸入で安価に安全に簡単に入手できる(世界で日本にだけない当たり前のピル)。

3. 副作用のうつ、自殺企図・自殺念慮の発生率 薬剤の種類別(人数%) 真の過去すべての体験 総合(確定+臨床)

	06年(526人)		01年(937人)	
GnRHアゴニスト類	使用者389人(使用率74%)		使用者830人(使用率89%)	
うつ	109人	28.0%	256人	30.8%
自殺念慮	61人	15.7%	114人	13.7%
自殺企図	8人	2.1%	14人	1.7%
ピル類	使用者348人(使用率66%)		使用者290人(使用率31%)	
うつ	13人	3.7%	10人	3.4%
自殺念慮	5人	1.4%	2人	0.7%
自殺企図	0人	0.0%	1人	0.3%

GnRHアゴニスト類(スプレキア点鼻、ナサニール点鼻、スプレキア注、ゾラデックス注、リュープリン1.88注と3.75注)
ピル類(低用量ピル、超低用量ピル、中用量ピル)

4. 副作用のうつの発生率 薬剤別(%) 真の過去すべての体験 総合(確定+臨床)

	06年(526人)	01年(937人)	96年(600~650人)
低用量ピル	3.5	3.0	-
超低用量ピル	0.0	-	-
中用量ピル	3.2	4.6	-
黄体ホルモン	5.0	-	-
ダナゾール	10.6	10.9	13.3
スプレキア点鼻	20.4	24.6	25.1
ナサニール点鼻	18.8	23.3	21.6
スプレキア注	25.6	21.8	-
ゾラデックス注	29.0	-	-
リュープリン1.88注	20.0	26.0	-
リュープリン3.75注	23.8	24.9	21.5

5. 副作用の自殺企図・自殺念慮の発生率 薬剤別 (%)

真の過去すべての体験 総合 (確定+臨床)

	自殺企図		自殺念慮	
	06年(526人)	01年(937人)	06年(526人)	01年(937人)
低用量ピル	0.0	0.5	1.6	1.0
超低用量ピル	0.0	-	0.0	-
中用量ピル	0.0	0.0	0.0	0.7
黄体ホルモン	0.0	-	0.0	-
ダナゾール	1.2	0.6	4.7	4.0
スプレキュア点鼻	1.3	1.0	5.7	10.4
ナサニール点鼻	0.0	0.9	8.2	8.8
スプレキュア注	2.3	0.8	9.3	10.9
ゾラデックス注	0.0	-	16.1	-
リュープリン 1.88 注	2.9	2.1	17.1	10.4
リュープリン 3.75 注	1.9	2.6	14.3	12.9

6. GnRH アゴニスト類のその他の問題な副作用 真の過去すべての体験 総合 (確定+臨床)

脱毛 0~10% (ピル類は0)

子宮萎縮 0~7% (ピル類は0)

関節痛や硬直 1~12% (ピル類は0~4%)

疲労倦怠感 18~38% (ピル類は9~12%)

情緒不安定 15~37% (ピル類は4~8%)

精神不安 15~31% (ピル類は0~7%)

不眠 12~26% (ピル類は0~3%)

めまい 19~31% (ピル類は4~9%)

胸部不快・息苦しさ・呼吸困難 2~10% (ピル類は0~1%)

動悸・心悸亢進 7~18% (ピル類は0~6%)

発疹・湿疹・蕁麻疹 3~10% (ピル類は3~5%)

色素沈着 1~7% (ピル類は2~4%)

光線過敏症 0~7% (ピル類は0)

味覚臭覚異常 1~3% (ダナゾール4%)(ピル類は0)

甲状腺機能異常 0~2% (ピル類は0)